



なるほど！ 展示場で プロの技に遭遇

インストーラーとリノベーションのプロが作り上げたリノベーションシアターは、生活に合わせるくつろぎの場とAV環境とが自然に融合したものとなった。

しかも驚くほどの低コスト。その秘訣は、常識や固定観念にとらわれない自由な発想にあるようだ。たとえばこの室内を見回して、ケーブルが配線されている場所をいい当てられる人がどれだけいるだろうか。壁や天井の裏側を通したり、モールで隠

アバックのホームシアターインストールノウハウと太陽ハウスのリノベーション技術が融合したショールーム。元はリビングだったとか。左端のラック後方にある柱はケーブルをかくすために後から設置したもの。その上のカーテンボックス風の囲いの中にケーブルが通っている。いずれも部屋に違和感なく溶け込んでいる。リノベーションのプロの妙技をこのショールームで体験してほしい

既存のリビング空間を低予算で見栄えよく仕上げたリノベーションシアター。千葉県松戸市にある建築・不動産会社太陽ハウス株式会社が、同社のモデルハウス「ソレイユ」内の一室に、AV機器の専門ショップアバックと協力して作り上げたものだ。アイデアあふれる工夫の中にリノベーションのプロの腕が冴える！

映画館のある家③
ホームシアター
リノベーション
千葉県松戸市 太陽ハウス
取材・文／磯崎俊一

見識を替える作り

したりするのが、ケーブルの一般的な処理方法だ。しかしこのリフォームでは、そのいずれの方法も用いていない。室内の写真を見ていただければわかる、壁面に伸びる軒らしき木材。実はこれ、カーテンボックスを後から設置したものなのだ。ケーブルはこのボックスのH字型の窪みに沿って這わせてある。ラックとカーテンボックスとの間については、柱風に仕立てた開いですっぽりと覆っている。ラックの背後に見える白い柱がそれだ。室内にあってもおかしくない建築上の要素に見せかけて処理するという方法。プロならではの機転を利かした発想といえるだろう。これなら壁や天井を壊すという大掛かりな施工もせずに済む。コスト軽減にもつながり、工期も短縮できるため、居住者のストレスも軽減できる。

そんな腕前をほかにもいくつか紹介しよう。そのひとつがスクリーンの設置場所にもなっている煉瓦張りの壁面だ。あたかもスクリーン用に窪みを作ったかに見える外観だが、元はと言えば、ある物を隠すための苦肉の策。柱状の突起物の一方に隠れているのは、電話交換機だ。実はこれ、構造上の問題で移動のしようがなかったものなのだ。しかし単に隠すばかりか、室内の願的存在に作り変えてしまうところが面白い。煉瓦張りに見える部分も、実は壁紙を貼ったもの。壁面いっぱい貼っていいか、書割的な安っぽさは感じられない。コストとにらめっこのこのアイデア勝負。十分勝っているように思える。更に部屋自体が持つ構造的な問題にも自由な発想で挑む。三角形の形をした吹き抜け状の天井空間が音響のバランスを崩す原因にもなっていたのだ。ふつうならば、天井の一部を仕切るように木材を渡し、新しく天井を作るところ。しかしそれではコストがかかり、リラクゼーション空間にふさわしい開放的な雰囲気も失うことにもなる。そこで用いられたのが、天井を区切るように、布を渡すという方法。布の持つ吸音効果も手伝い、音響問題は改善。そればかりでなく、ゆったりとした気分を演出してくれる天幕が室内に出現した。うっすらと布地に透かした向こう側に、天井部の広がりがおぼろげに感じられるという視覚的な楽しさも同時に獲得。

まだまだ紹介できない部分もあるが、リノベーションでホームシアターを作ることの魅力が少しは伝えられただろうか。



壁面は一見煉瓦張りに見えるが、実は壁紙を貼ったもの。予算との兼ね合いでどの部分のコストを削っていくかも相談次第。プラズマはバイオニアのPDP-503HD、スピーカーはAADを中心とし、ヤマハのDSP-AZ1を使用した8.1ch構成



プロジェクターが天井に吊りされている箇所は軽量鉄骨。部屋のサイドから梁のように渡し、雰囲気にもマッチする壁紙を貼って仕上げた。天井は吸音とやわらかなライティングを得るために布を効果的に使っている(左)。スクリーン用にボックスを設け、スクリーンボックスごとかくしてある



太陽ハウス株式会社 住宅展示場「ソレイユ」

千葉県松戸市新松戸3丁目208番地1号 ☎047-309-2233 <http://www.taiyo-house.co.jp/>
ホームシアターインストール：アバックホームシアター課 担当 富沢 聡 0120-03-0844 <http://www.hometheater24.com>



シアタールームオープンにあわせて、バルコニーを坪庭にリノベーション